

特殊清掃 作業手順と注意点

1、 臭いの根源となるモノの除去

特殊清掃の場合、どこからか臭いの発生を生み出しているモノ・箇所があります。多くの場合、亡くなられた周辺になります。お布団で亡くなっていた場合はこの布団を除去しないことにはいくら脱臭機をかけても臭いは再発してしまいます。またその周辺にある服や布、紙製品等はビニール袋に入れ、嚴重に縛り、これ以上臭いが漏れないようにします。(処分作業も当社で行わせてもらう場合は、トラックに積み込みし部屋を空っぽにしてから特殊清掃を始めます。)



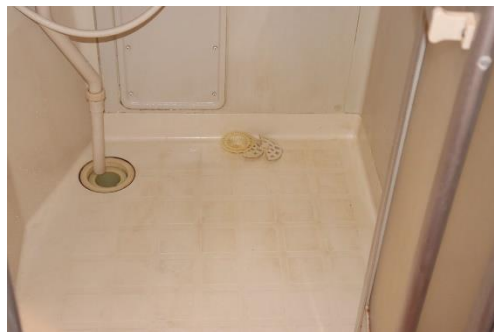
2、 除菌薬等で洗浄

体液等がフローリングや畳、ユニットバス内で染みついている場合には、専門の除菌薬を用いて洗浄していきます。これはスタッフが感染症にかからないためにも用いる薬品なのですが、これから使うオゾン脱臭機を活性させる意味でも用います。写真を3枚並べさせて頂きます。

こちらの写真は見積もり時に初めて現場を見た時の写真になります。ユニットバス内で横たわるようにして亡くなっていたそうです。



こちら2枚目の写真は専門の除菌薬、洗浄剤、オゾン活性剤を用いて洗浄した後の写真になります。まだ赤く、体液のシミとなるものが染みついています。



こちら三枚目の写真。さらに専門の薬品を用いて真っ白になりました。



ただ体液を洗浄するのならば、ハウスクリーニング業者でも作業ができます。しかし特殊清掃業者が必要とされているのには訳があるのです。

ここからが本題の脱臭になります。

洗浄の途中で使用した「オゾン活性剤」。この薬品を適量使用することによって、オゾンを最大限に生かし、臭いを消すのです。これはオゾンと悪臭の仕組みを学んだ「事件現場特殊清掃士」だからこそできる技術なのです。

3、 臭いの根源となるモノの見逃しはないか確認をする

これは亡くなられた場所や発見までにかかった日数にもよるのですが、壁紙にも臭いが染みついていると判断した場合には、壁紙も除去する必要があります。またフローリング等で亡くなられていた場合には、その下も確認する必要が出てくるのです。右の写真はフローリングを剥いだ写真になります。めくってみるとフローリングの下には染みついた体液がびっしりと。こちらも除去しないことには何をしても悪臭は消えないのです。見逃しがないかを厳重にチェックしていきます。



4、 オゾン脱臭機設置・燻蒸

他にも細かい作業工程はございますが、大まかな説明とさせていただきます。そして最終段階のオゾン脱臭です。オゾン脱臭を最大限に生かす方法「OST法(オゾンショックトリートメント法)」を用いて脱臭していきます。



この方法は、室内面積に対して、どのくらいの薬品を散布するのか、湿度や温度、風量、オゾン発生量などなど、、様々な条件を満たしていないとこの方法を用いることが出来ません。

また喚起も重要になります。1時間半脱臭機をかけ、45分喚起をする。などを繰り返すことで臭いを消滅させます。

最後にバイオ薬品を散布し作業は終了となります。

ここまで大まかにはなりますが4段階に分けて作業手順を説明させて頂きました。

特殊清掃業者を選ぶお客様への注意点

近年、特殊清掃業に多くの個人業者様が参入してきております。本紙にも途中記載させて頂きましたが、清掃をするだけならハウスクリーニング業者でもできてしまうのです。しかし、清掃をすることが本来の目的ではございません。鼻につく悪臭・腐敗臭をしっかりと除去しなければならぬのが特殊清掃です。ただファブリーズを散布するだけの業者。見えないところは清掃しない業者。一時的には臭いは取れるが再発を招いてしまうような作業をする業者が多く存在しています。見た目だけきれいにするのではなく臭いをゼロにしなければいけません。

当社では臭いが再発してしまった場合には保証が付いておりますので無料で何度でも脱臭機をかけさせて頂いております。

他の業者にも見積もりを取ってもらう際には、しっかりと臭いは取れるのか。部屋の隅々まで見てくれるのか。臭いは取れると断言できるのか。そして保証のようなものは付けられるのか。これらを確認したほうが良いかと思えます。

お客様からすれば、値段がどれくらいかかるのかは検討が付かないかと思えます。そのため多くの業者に見積もりを取ってもらうこともあるかと思えます。しかし、業者選びを行う際は、ただ安いからで決め手はいけないことをご教示させて頂きたいです。

吉兆 井口智仁